



平成 29 年度
ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in くまもと
実施報告書



平成 29 年 10 月
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

目次

はじめに	1
実施概要	2
スケジュール	3
ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップへの思い 庄崎 隆志	4
ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップへの思い 貴田みどり	9
プログラム概要 第66回全九州ろうあ者大会 研修分科会 第1分科会「手話」	14
プログラム概要 第66回全九州ろうあ者大会 アトラクション	15
プログラム概要 若草児童学園	16
参加者の感想	17
プログラム概要 熊本菊陽学園	18
参加者の感想	19
プログラム概要 障害者支援施設すみれ園	20
参加者の感想	21
特定寄付金協力謝礼	22
編集後記	23

はじめに

当基金では、平成 23 年の東日本大震災後の福島の子どものための取組として、「ふくしまっこキャンプ」と題した活動を福島から関東へお招きをして、平成 24 年度から続けてまいりました。

平成 27 年度からは、福島県内において活動できる内容として、養護学校中心にノンバーバル（非言語）コミュニケーションワークショップと題した、子どもたち同士がよりよくコミュニケーションを図るきっかけとして、楽しみながら体験していただくために開催いたしました。

昨年度は福島県内の障害のある子どもが通う特別支援学校や障害者施設でワークショップを行うことにより、地域の中で支えあいつながりを強くすることができないかという目的のもと、2 日間で 4 施設を訪問し開催することができました。

今年度は、昨年 4 月に発災した熊本地震の被災地域にある障害者団体や施設を訪問し、昨年度同様、障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたしました。併せて、同時期に開催されている全九州ろうあ者大会との協働し、学びの場といたしました。

平成 29 年 10 月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

実施概要

ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in くまもと

- 1. 目的** ナイスハート基金は、平成23年度より東日本大震災の被災地を対象とした活動を実施して参りました。昨年度は福島県内の障害のある子どもが通う特別支援学校や障害者施設でワークショップを行うことにより、地域の中で支えあうつながりを強くすることができないかという目的のもと、2日間で4施設を訪問し開催することができました。今年度は、昨年4月に発災した熊本地震の被災地域にある障害者団体や施設を訪問し、昨年度同様、障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。併せて、同時期に開催されている全九州ろうあ者大会との協働し、学びの場といたします。
- 2. 日時** 平成29年9月9日（土）～11日（月）
- 3. 場所** 熊本県立劇場（熊本県熊本市中央区）
若草児童学園（熊本県菊池郡大津町）
熊本菊陽学園（熊本県菊池郡菊陽町）
障害者支援施設すみれ園（熊本県熊本市北区）
- 4. 主催** 公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金
- 5. 後援** 熊本県
社会福祉法人熊本県社会福祉協議会
- 6. 助成** 社会福祉法人黎明会 福祉開発振興援助事業
- 7. ファシリテーター** 庄崎隆志さん office 風の器主宰・俳優・演出家
貴田みどりさん 女優・ダンサー

～スケジュール～

9月9日

13:00 第66回全九州ろうあ者大会 研修分科会 第1分科会「手話」開始
13:00 司会からご紹介と挨拶
13:05 ノンバーバル説明 (庄崎隆志)
13:10 アイスブレイク (拍手 / グーパー体操 / 壁どん他)
13:30 わかめ・こんぶ体操他→休憩
13:45 サイレントオーケストラ演奏会他
14:05 ドラマ「出会い」→休憩
14:35 グループワーク テーマ「歩く」
15:00 グループワーク「四季」
15:40 グループワーク発表
16:20 チェロマイム独演会「うみ」
16:30 終了

9月10日

13:00 第66回全九州ろうあ者大会 アトラクション開演
13:02 アイスブレイク (拍手 / 壁ドン他)
13:10 参加者とのコラボ (みんなの町をつくろう)
13:15 チャップリン登場
13:20 チャップリンソロパフォーミング / 美しい花売り娘登場
13:35 「月日は流れ」美しい花売り娘ソロパフォーミング
13:40 「あなたでしたの」再会 演者二人のパフォーミング
13:45 終了
15:15 若草児童学園ワークショップ開始
中尾園長挨拶 / アイスブレイク (ハイタッチ / 拍手他)
15:30 犬のものまね他
15:40 汽車ごっこ
15:50 指パフォーマンス
15:55 ハイタッチ→お礼の挨拶 (一部手話で)
16:00 終了

9月11日

9:55 熊本菊陽学園ワークショップ開始
田中理事長挨拶→アイスブレイク (拍手他)
10:05 ミラーリング他
10:20 汽車ごっこ
10:30 エアーなわとび
10:40 男女の出会い→お礼の挨拶
10:45 終了
13:30 障害者支援施設すみれ園ワークショップ開始
荒木施設長挨拶→ハイタッチ / 拍手
13:40 エアーボール / エアーキャッチボール
13:50 決めポーズ (ミラー) 他
14:00 くまもん劇場
14:10 エアー風船他
14:20 チェロマイム「うみ」→お礼の挨拶
14:30 終了

ノンバーバル・コミュニケーション ワークショップへの思い



庄崎 隆志

Takashi Shozaki

国際障害者年記念ナイスハート基金のノンバーバルコミュニケーションワークショップ企画が立ち上がってから三年になります。

演劇、舞踊、人形芝居、落語など様々な芸能は、本質を突き詰めていけば広い意味でのノンバーバル（非言語）に行き着くと思っています。ノンバーバルを使ってワークショップを行うことで障害の有無を越えてきたと思います。この三年間、全国各地の特別支援学校や障害者施設、病院などをまわり、多くの障害者、障害児の皆さんと出会いました。ノンバーバルコミュニケーション・ワークショップによって、誰もが一人ひとりアートの才能を有しているのだということがわかり、またびっくりさせられることがたくさんありました。それは障害者の方々の不思議な発想によるアートです。言葉が出ない方、発語の

ない方、「アー」「ウー」と出す人も、動かない方もいます。大きな音や人が苦手で、いつも耳をふさいでいる人もいます。ぴよんぴよん跳ねている人もいます。彼らは実に個性的でユニークな人たちです。それぞれに動きや個性があるという認識を高め、ノンバーバル活動を前提に、しかし最初からプラン通りに、指導をしようと考えないで参加者の目線で一緒にワークショップをスタートさせました。カラダ遊びをしながら自然に表現活動につながっていくように展開させれば、どのような障害があっても、誰もが演じる力を発揮してくれると考えることが大切だと思います。



九州は、昨年4月14日には突然の熊本地震、そして7月には福岡県朝倉市、大分県日田市などの九州北部豪雨に見舞われました。この大きな被害から数ヶ月後、大分で開催予定だった全九州ろうあ者大会は中止となりました。被害を受けた様々な障害者はどうしているのだろうか。恐怖と不安のただ中にいて怯えながらいたと思われる障害者の皆さん。何か支援できたらと思いながらも、私のような仕事の者は無力さを感じていました。この一年後、国際障害者年記念ナイスハート基金から依頼があり、第66回全九州ろうあ者大会にてアトラクションに出演したり、分科会、熊本県内の障害者施設三カ





所を回ることになりました。ノンバーバルコミュニケーションワークショップと芝居の楽しさを通して参加の皆さんへの励ましや心の回復につながることを願いながら、粘り強く「笑い」の支援活動をしていこうと思い、引き受けました。被災者の皆さんは再生に向けて力強く躍動しているように感じました。

1日目は全九州ろうあ者大会分科会でのワークショップでした。4時間余り、ハラハラ、ドキドキ、ワクワクしたり、大笑いして、すっかり打ち解けた仲間同士のような気分になりました。

2日目はこの大会のアトラクション出演としてチャップリンの「街の灯」を上演させて頂きました。共演者の貴田みどりさんと二人だけではもの足りないので、分科会の参加者の中から七人が一緒に即興的劇遊びなどを楽しみました。

2日目の午後と3日目は、熊本県内の障害者施設三カ所でのワークショップを行いました。内容はアイスブレイクとしてハイタッチ、ミラーリング、汽車ポップなどを行いました。特にホワイトボードを歌舞伎の定式幕の替わりにし、幕をあけると、みんなが自分を見てくれている、僕らとつながっているーこんな思いが



「自信」を生み出してくれます。ポーズや動きは皆さん様々です。歌舞伎の見栄ポーズのような、ダンスのような決まったスタイルではなく、自然な動き、自由弄放に踊り出します。形や決まりにとらわれず自分を自由に思いっきり表現します。予定調和は存在しません。即興ダンスやジャズのセッションのようなものです。

ある障害者施設でのワークショップ終了後、施設長から「ああ、このひとたちが心の底から笑ってくれた！42年も笑顔を見せしてくれない人がいたが、今日は表情が緩み笑顔がようやく出ていた」と言われました。涙を溢れさせそうになりながら話してくれた施設長のことが忘れられません。こちらも嬉しくなります。

動くのが苦手な人もいます。そんな人を無理にはやらせません。面白いのを見ている人もその表情や行動に変化がみられます。熊本県内の障害者施設のどこの参加者も笑顔でこちらが元気をもらい、「ノンバーバルコミュニケーションの笑うチカラ」を確信しました。

笑顔を見せてくれた参加者の方の息遣いや身体の動きを通じた一人ひとりの心、彼らの気持ちが僕に伝わった時、僕自身の心と身体にも「新しい～いのち」が吹き込まれ、生きる力が湧いてくるのです。ノンバーバルという人と人を紡ぐ【場】をしつらえるだけで、心の底から笑うというエネルギーが生まれます。また、職員の





方や保護者の方、知り合いの方、関係の皆さんが観客として障害者の方たち本人の〈人生の物語〉を観させてもらい、感動を共有できるので、こんなに素晴らしいことはありません。

最後にこの場をお借りして、「街の灯」稽古に向き合ってくれた共演者貴田みどりさん、筑波技術大学の大杉先生をはじめ、鈴木さん、高倉さん、若草児童学園、菊陽学園、すみれ園、関係者の皆さんにもお礼を申し上げます。皆さんのお力添えがあったからこそ、たくさんの笑顔がうまれていることにも感謝しています。障害者の方のアートパワーと笑いを信じてこれからも活動を広げ、より強く繋げてゆきたいものです。



庄崎隆志

office 風の器主宰・俳優・演出家。

19歳で裏方のアルバイトのつもりで入ったプロフェッショナル劇団「デフ・パペットシアター・ひとみ」で思いがけず役を貰い、俳優に。演出・脚本も手がける。国内で2000回以上、また海外13カ国で公演の経験を持つ。2005年の退団後は公演プロデュース、また実践女子短大をはじめ様々な教育の場や国立特別支援教育総合研究所等でワークショップの講師としても活躍。映画『ゆずり葉』(全日本ろうあ連盟製作)主演。著書に「障害者と福祉文化」(第8巻・明石書店)他。2010年「第59回横浜文化賞文化・芸術奨励賞」受賞。

ノンバーバル・コミュニケーション ワークショップへの思い

貴田 みどり

Midori Kida



今回初めてノンバーバルコミュニケーションワークショップに関わりました。今までバーバルコミュニケーションで私が舞台上で演じてお客様が観て楽しんでもらうことが多いので、今回のワークショップでたくさんの方とノンバーバルコミュニケーションで通じたことに驚き、ノンバーバルコミュニケーションの素晴らしさを実感することができました。

1日目は全九州から熊本へ集まった、ろう者たちとのワークショップでした。庄崎さんのアイスブレイクが始まり、参加したみなさんが積極的に身体を動かしたと思ったら、顔まで動かし全身を使い最初から盛り上がり笑いの耐えないワークショップになりました。私はその日が初めてのワークショップだったので、とても不安な気持ちが大きかったです。庄崎さんがアイスブレイクを始めてからみなさんとも楽しい雰囲気にも私も緊張が少しずつ薄れていき、ノンバーバルコミュニケーションでみんなと気持ちが一つになる瞬間を初め



て知ることのでき、様々なことを学べることで多かったワークショップとなりました。

2日目午前中はアトラクションとして前日にワークショップに参加した7名と一緒にアトラクションを披露しました。7名のみなさんはとても緊張されていたけど舞台上に上がると「楽しい！！」という気持ちが溢れていて私も気持ちがより楽しくなり、盛り上がりました。つまりノンバーバルコミュニケーションというのはそういうことなんだと改めて気づくことができました。

午後から若草児童学園さんでのワークショップでした。1日目にワークショップをやったこともあり緊張はそこまでありませんでした。いざワークショップを始めると、私が想像していたのと違い、途中でどのようにみなさんと通じ合えるのか周りをみながら考えながらワークショップを進んでいきました。真ん中に集まっている人たちと端で様子を眺めている人たちがいたので、端で眺めている人たちがみんなと一緒に真ん中へ誘導しようとして私がうろうろしていたことが原因で、参加したみんながどこを注目して見ればいいのか分からず盛り上がらない場面もありました。それを見ていた庄崎さんがみんなのできるエアーなわとびでみんなと楽しい雰囲気になっていきました。



ノンバーバルコミュニケーションは1つだけではなく、その場にあったノンバーバル、一人一人あったノンバーバルがあるのだと改めて感じました。

3日目午前中は熊本菊陽学園さんでした。2日目にまだエネルギーを出し切れなかったところもあって反省点を庄崎さんからアドバイスを頂き、ワークショップに励みました。ハイタッチから始まりみなさんとたくさん目を合わせることができました。積極的に私もアイスブレイクをしましたが、その場にあったノンバーバルの表現がうまくできず反省することもありましたが、参加したみなさんは積極的な方が多く、「やりたい！」と前に出てポーズを取ったりしてみんなで盛り上がるワークショップとなりました。私よりも参加したみなさんがノンバーバルコミュニケーションで私たちに想いを伝えてくれたところもあり、ノンバーバルコミュニケーションのおもしろさに魅力を感じたワークショップでした。

午後はすみれ園さんでした。今までは若い方が多いワークショップでしたが、すみれ園さんでは高齢者が多く椅子で座ってのワークショップとなりました。教室に入ってからみなさんから暖かい拍手で迎えてくださいました。ハイタッチから始まり、みなさんともうそこから気持ちが一つになったように感じました。エアーパー





ルでは積極的にやりたい！という方が多く前に出て一緒にキャッチボールをしました。私が普通に投げていると向こうからたくさん投げてきました！私が想像していないことが返ってきて面白い発想があり、ノンバーバルだからこそ出る発想だととても面白く、最後まで盛り上がりました。

今まで私がどれだけ、バーバルコミュニケー



ションに頼っていたのがわかりました。ノンバーバルコミュニケーションだからこそ伝えること、色んな発想を生み出すことができる素晴らしさをこの3日間で感じることができました。芝居を演じるにはバーバルコミュニケーションだけだと思っていましたが、ノンバーバルコミュニケーションを生かすともっと芝居のおもしろさが出て、よりたくさんの方に気持ちを伝えることができるのだと思いました。

参加者のみなさん、庄崎さん、関係者のみなさんからたくさんのことを学ぶことができ、私にとって成長させて頂きました。



貴田 みどり

神奈川県生まれ。3歳から松山バレエ団にてクラシックバレエを始める。17歳の時ミュージカルに子役とダンサーとして出演。17歳からジャズ、ヒップホップの幅広いダンスジャンル習得。20歳から映画やテレビに出演し始める。

【テレビ】

「みんなで応援！リオパラリンピック2016」(NHK-Eテレ) 手話キャスター他

【舞台】

2005.8 サインミュージカル「Call Me Hero！」大橋弘枝役他多数出演

【講演】

全国高校生の手話によるスピーチコンテスト特別プログラム講演他

【その他】

・第1回・第2回 全国高校生手話パフォーマンス甲子園審査員他



プログラム概要

第66回全九州ろうあ者大会 研修分科会 第1分科会「手話」 9月9日(土)

時間	プログラム	写真
13:00～	ご紹介と挨拶	
13:10～	ノンバーバル説明 アイスブレイク (拍手/グーパー体操/壁どん他)	
13:30～	わかめ・こんぶ体操他	
13:45～	サイレントオーケストラ演奏会	
14:05～	ドラマ「出会い」	
14:35～	グループワーク「歩く」	
15:00～	グループワーク「四季」	
16:20～	グループワーク発表	
16:30	チェロマイム独演会「うみ」 分科会終了 【参加者合計61名】	

プログラム概要

第66回全九州ろうあ者大会アトラクション 9月10日(日)

時間	プログラム	写真
13:00～	アイスブレイク (拍手/壁ドン他)	
13:10～	参加者とコラボ (みんなの町をつくろう)	
13:15～	チャップリン登場※庄崎隆志 チャップリンソロパフォーミング	
13:35～	美しい花売り娘登場※貴田みどり 美しい花売り娘ソロパフォーミング	
13:40～	「あなたでしたの」再会 演者二人のパフォーミング	
13:45	アトラクション終了 【参加者合計約700名】	

プログラム概要

若草児童学園 9月10日(日)

時間	プログラム	写真
15:15～	ワークショップ開始 中尾園長挨拶 アイスブレイク (拍手/ハイタッチ他)	
15:30～	犬のものまね他	
15:40～	汽車ごっこ	
15:50～	指パフォーマンス	
15:55～	ハイタッチ お礼の挨拶 (一部手話で)	
16:00～	ワークショップ終了 【参加者合計65名】	

「参加者の感想」

若草児童学園

例年、(公財)国際障害者年記念ナイスハート基金関係者の皆様には、子ども達との交流等を計画していただきありがとうございます。今回は、「ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in くまもと」として、これまでと違った形での交流を実施していただき、大変参考になりました。

言葉を使わず、ジェスチャーで会話をしていく！という、とても不思議な体験をさせていただきました。そして、子ども達が職員よりも読み取る力が早く、すぐに溶け込んでいく姿が素晴らしく、ファシリテーターの庄崎隆志さん、貴田みどりさんのパフォーマンスにも少しずつ自分たちの気持ちを伝えていました。

エアーなわとび等、色々なゲーム等にも積極的に参加する子ども達の表情を見ることができ、今後、何らか形で実践していければと感じました。また、言葉でのコミュニケーションが使えない場合に、顔の表情や仕草等相手にどのように気持ちを伝えていけるかを実感できたのではないかと思います。今後、ノンバーバル・コミュニケーションで自分からいつもと違った伝え方をみんな実践していければと思います。

最後になりますが、今回の交流会等を企画していただいた関係者の皆様、ファシリテーターの庄崎隆志さん、貴田みどりさんに厚くお礼を申し上げます。ほんとうにお世話になりました。

プログラム概要

熊本菊陽学園 9月11日(月)

時間	プログラム	写真
9:55~	ワークショップ開始 田中理事長挨拶 アイスブレイク (拍手他)	
10:05~	ミラーリング他	
10:20~	汽車ごっこ	
10:30~	エアーなわとび	
10:40~	男女の出会い お礼の挨拶	
10:45~	ワークショップ終了 【参加者合計105名】	

「ノンバーバル・コミュニケーション ワークショップ in くまもと」を終えて

熊本菊陽学園 紫藤 秀幸

この度は「ノンバーバル・コミュニケーション ワークショップ in くまもと」で当熊本菊陽学園にご来園いただきありがとうございました。

最初は言葉を使わないアイスブレイクに利用者の方も戸惑いながらのスタートで、なかなかコミュニケーションがとれませんでした。ファシリテーターの庄崎さん、貴田さんの豊かな表情や体を目一杯使ったハイタッチや演技、パフォーマンスに徐々に打ち解けていき気持ちが伝わり又伝えられるようになりました。

物真似やエアークラクション、自動車ごっこ等にも積極的に手を挙げ参加する利用者も出てきて、最後はたくさんの利用者が前に出て大変盛り上がりました。

日頃、当たり前に使っている言葉のコミュニケーションが使えない時に相手にどう自分の気持ちや思いを伝えるか今回のノンバーバルコミュニケーションで表情や仕草、身振り等で自分らしく、自分なりに相手に気持ちを伝えられるということの素晴らしさを実感しました。

ノンバーバルコミュニケーションについては、ほぼ全員が初めての体験でしたが、大変貴重な体験となりました。これからバーバルコミュニケーションばかりに頼らずノンバーバルコミュニケーションでいつもと違った伝え方、伝わり方等を勉強していけたらと思います。

最後に企画をしていただいた(公財)国際障害者年記念ナイスハート基金関係者の皆様、ファシリテーターの庄崎隆志さん、貴田みどりさんの今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。お忙しいなかで大変ありがとうございました。

プログラム概要

障害者支援施設すみれ園 9月11日(月)

時間	プログラム	写真
13:30~	ワークショップ開始 荒木施設長挨拶 アイスブレイク (拍手他)	
13:40~	エアボール エアキャッチボール	
13:50~	決めポーズ ミラーリング	
14:00~	くまもん劇場	
14:10~	エア風船他	
14:20~	チェロマイム「うみ」 お礼の挨拶	
14:30	ワークショップ終了 【参加者合計50名】	



～ノンバーバルコミュニケーションを体験した感想～

すみれ園 利用者より



○最近いろいろなことがあり、落ち込むこともありましたが、ノンバーバルコミュニケーションワークショップを楽しみにしていました。そしてみんなの前で発表して自信が付き、心が豊かになり、笑顔になり、みんなも楽しくて嬉しくなりました。

また機会があったら楽しく踊りましょう。楽しみにしています。(Y.E)



○ノンバーバルコミュニケーションワークショップにきていただきありがとうございました。キャッチボールをして、とてもたのしかったです。

どうかからだに気をつけてがんばってください。(S.H)



○二人がこられて、いろんなげいをみられて、みんなたのしくすごさせていただきました。

これからも体に気をつけて仕事にがんばってください。(J.T)



特定寄付金協力謝礼

<実施事業の概要>

東日本大震災後の不安定な環境により、福島の子どもたちは外で活動する機会が減り、とりわけ障害のある子どもたちに対する支援は行き届かない状況が続いています。このような環境の中、障害児とその家族の精神的負担は大きいものだと考えられ、支援の必要性を強く感じています。

平成24年度より実施した、福島の障害のある子どもと家族のための「ふくしまっ子キャンプ」では、3年次にわたり多くのご家族とボランティアの参加を得て、好評のうちに実施することができました。また、この活動に対して、平成26年度には募金総額 1,827,550円（12団体/16個人）のご寄付をいただき、支えていただきました。

今年度は、昨年4月に発災した熊本地震の被災地域にある障害者団体3施設を訪問し、昨年度同様、障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたしました。併せて、同時期に開催されている全九州ろうあ者大会との協働し、分科会とアトラクションで実施させていただきました。

みなさまに募金を呼びかけました「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップinくまもと」につきまして、多くの個人、団体のみなさまからご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

<募金総額>

305,000円（3団体/11個人）

（株）リミックス・プロデュース石村壽啓様、鈴木英仁様、後藤幹一様、（特非）ひびき様、（特非）まーる工房 理事長 平野万理子様、山田美和子様、岩佐浩一様、澗口良一様、（特非）自立支援センター歩歩路様、奥川貴弥様、（福）ピースの会 理事長 依田正吉様、（株）全国儀式サービス様、（学）東京育英学園 理事長 野口昇兵様、けやきの会

このノンバーバルのワークショップは、予定調和な結末にならず、その場の参加者の雰囲気や醸し出す空気をいち早く察知される演者のお二人が、参加者と演者の間で、まさにノンバーバル（非言語）で対話をされて場を作りだしていくものです。

今回は新たな連続の試みで、メイミさんの代わりに貴田みどりさんが演者となり、また庄崎隆志さんのご紹介により、全九州ろうあ者大会での分科会とアトラクションでワークショップをさせて頂く事となり、準備段階から進行表を認めて臨むこととなりました。

初日の分科会でのびのびとノンバーバルで表現される参加者の方々、そして翌日のアトラクションでも、庄崎隆志さんと貴田みどりさんとの絶妙なかけあいで場を盛り上げて頂き、そこには知らない人同士の心が結ばれた瞬間の連続だったと感じています。

ワークショップの後半は、熊本県内の障がい者施設を訪問させて頂きました。やはりその空間はどんな結末になるのか想像つかない場でありました。その不思議な空間の中で、相対する人達の表情や行動を促し、崩し、開かせようと試みる演者のお二人、はたまた自ら先頭に立ってノンバーバルで右往左往され、やがて表情や態度でじわじわと自己表現される参加者達によって、参加者以上に満面の笑みとなって結末へと導かれるお二人の姿に、「向き合う相手の笑顔が、笑顔を広げていくんだ」という事実に気付かされました。

数多くの豊かな表情を目の当たりすることができたことに感謝して、このワークショップに関わってくださった全ての関係者の皆様に御礼申し上げます。

(公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金 高倉 和樹)

平成 29 年度ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ
実施報告書

平成 29 年 10 月発行

発行元 公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金